

令和2年度琉歌募集事業選考委員長講評

全体講評

2020年、世界は新型コロナウイルス感染拡大という大きな困難に向き合わざるを得なくなりました。不要不急の外出が禁じられ、学校は休校となり、営業自粛やイベントの中止が相次ぎました。先の見えない不安は今も続いています。このような中で琉歌募集に応じてくださるだろうかと危惧しておりましたが、多くの方が南城市の風土を琉歌にうたい、そして応募してくださいました。

また、講師を務められた伊良波先生をはじめ多くの方のご尽力により、今年度も南城市内の中学校で琉歌講座が開かれました。多くの生徒が南城市の歴史や文化、自然について学び、それを瑞々しい感性で琉歌にまとめ、応募してくださいました。

今回、一般の部に104首、児童生徒の部に199首もの作品が寄せられました。心より感謝申し上げます。

◇一般の部

南城市琉歌募集事業では、琉歌のテーマを南城市内の風土（歴史、文化、自然、時事）をうたったものに限定しています。そのため斎場御嶽や受水走水など特定の史跡に歌が集中し、同じような表現が繰り返されているような印象を受けました。これまでとは異なる新たな視点や発想で琉歌を作ることにも挑戦していただけたらと思います。また、選に漏れた琉歌の中には、あと少しの工夫で受賞作に劣らぬ良い歌になるのにと惜しく思われる歌もありました。

今回の応募作品について選考委員からは、各文化財・行事を通して、自身の経験や思いを反映させて詠まれており、地域に対する愛着がうかがえると評価されました。中でも受賞作品はリズムも大変良く、表現もありきりな表現方法ではなく斬新な言い回しで仕上げていると高く評価されています。選考には大変苦慮しましたが、今回もすばらしい琉歌に出会えたことを嬉しく思います。

今回大賞に選ばれた琉歌では、恋人と垣花樋川を訪ねて愛の確信を得たことがうたわれています。豊富に湧き出る垣花樋川の清らかな水と二人の愛情のさまが重ねられ、美しい情景を作りだしています。実際の垣花樋川

に恋物語は伝えられていないようですが、男川と女川に分かれて湧き出た水が下流で一つになるさまは、二人の関係を表わしているようでもありません。垣花樋川を訪ねれば恋人とより強い愛情で結ばれることでしょう。南城市の史跡を扱いながら恋心がうまく詠み込まれているところが高く評価されました。

ウローカー近くの砲台跡をうたった琉歌は、神聖なウタキの近くにも忌まわしい戦争の記憶が刻まれていることを思い起こさせてくれました。久高島をうたった琉歌は、海の祭りに沸く青年が描かれており、神聖な島のイメージで歌われることの多い久高の新たな側面を見せてくれました。知念玉城をうたった琉歌は、点々と連なる島々を「御神渡ぬ」と表現し、ニライカナイから神々が渡ってくる光景をありありと見せてくれました。間得大君斎場御嶽行幸をうたった琉歌は御新下りという儀式を行い新たな間得大君を迎えることで、コロナに負けず穏やかな日常を取り戻したいとの思いが強く胸に迫りました。

◇児童生徒の部

南城市の史跡や偉人だけでなく、自然や海、シュガーホール、エイサーなど、実にさまざまなテーマで琉歌を作ってくれました。普段使いなれないウチナーグチを取り入れて琉歌の形にするのは大変だったと思います。和歌や俳句のリズムになっていて琉歌のリズムに合わないものも見られました。

コロナの感染拡大により子どもたちの生活も一変しました。友達と会えない寂しさや不安などをうたった琉歌もありました。また、夏や海、花火といった楽しい夏の風物をうたった琉歌もありました。しかし、今回のテーマから外れるために受賞作とはなりませんでした。

選考に際して、琉歌の音律が整っていること、ウチナーグチを使って自分の思いを表現していること、南城市の風土をうたっていることを重視しました。今回受賞した5作品とも、身近な大人にウチナーグチを教えてもらいながら、一生懸命琉歌に向き合ったことが伝わってきました。どれも思いがしっかりと表現されており、受賞作として相応しい作品であると評価されました。